

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	大川 貴子	経営	H2301029
	②	平林 亨子	福祉	H2301072
	③	岩井 智子	福祉	H2301113
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	東深沢小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	158-0081		
	所在地	世田谷区深沢3丁目7番1号		
	TEL	158-0081		
事業所代表者氏名	事務局長 渡辺 公幸			
契約日	2025 年 4 月 16 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 9 月 11 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 6 月 18 日			
自己評価結果報告日	2025 年 9 月 11 日			
訪問調査日	2025 年 9 月 26 日			
評価合議日	2025 年 9 月 26 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、アンケート調査を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026 年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 児童の安全な遊び場の確保。</li> <li>2) 集団遊びの中から社会性を養う。</li> <li>3) 自由な遊びや様々な体験を通して創造性や自主性を養う。</li> <li>4) 児童の健全育成を図る。</li> <li>5) 子どもの放課後の居場所を確保する。</li> </ol>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区民福祉向上について常に区民の立場に立って考え実践する職員。</li> <li>・地域に愛着を持って、区民、事業者と手を携え、主体的に課題を解決する職員。</li> <li>・コミュニケーション能力に優れ、人と人とのふれあいを大切に知る職員。</li> <li>・区民満足度の向上とコスト意識を合わせた」経営感覚を備え、合理かつ効率的に業務を遂行する職員。</li> </ul> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人と人とのふれあいを大切にする、コミュニケーション能力の高い職員。</li> <li>・新しい発想のもと、バイタリティ溢れる行動派の職員。</li> <li>・地域に愛着を持って惜しみなく汗を流せる職員。</li> <li>・真の区民福祉向上について、常に区民の立場に立って考え実践する職員。</li> <li>・顧客満足度の向上とコスト意識を合わせた経営感覚を備え、プロ意識に徹する職員。</li> </ul>

調査対象

登録児童全員を対象とした。

調査方法

Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。

利用者総数

202

共通評価項目による調査対象者数  
 共通評価項目による調査の有効回答者数  
 利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
202	0	202
33	0	33
16.3	0.0	16.3

**利用者調査全体のコメント**

調査対象者202名のうち、33名から回答を得ることができた。  
 満足度の高い項目として、「おやつの時間が楽しいひとときになっているか」「学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか」「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか」「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」などがあげられる。  
 総合的な満足度では、33名全員が「大変満足、満足」と回答しており、学童クラブの生活に満足している様子がうかがえる。

**利用者調査結果**

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	30	1	1	1
30名が「はい」、1名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「学童の友達と遊べて楽しい」「家にはないおもちゃがあるから良い」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	26	5	0	2
26名が「はい」、5名が「どちらともいえない」と回答している。また、「いつも一緒に遊んでくれる」などのコメントがあがっている。				
3. おやつの時間が楽しいひとときになっているか	31	0	2	0

31名が「はい」、2名が「いいえ」と回答している。また、「おいしい」「もっと増やしてほしい」などのコメントがあがっている。

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	12	4	0	17
12名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、17名が「非該当・無回答」と回答している。また、「まだ話し合うような場面がない」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	29	2	0	2
29名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答している。学童クラブの約束ごとについて、職員から子どもへの説明が行われている様子がうかがえる。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	17	8	5	3
17名が「はい」、8名が「どちらともいえない」、5名が「いいえ」と回答している。概ね清掃など行き届いていると感じられているが、一部に片付けに関するコメントもみられた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	25	5	1	2
25名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。職員の接遇や態度が適切である様子がうかがえる。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	30	0	1	2
30名が「はい」、1名が「いいえ」と回答している。また、「いつも助けてくれる」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	28	2	1	2
28名が「はい」、2名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「何かあると助けてくれる」「先生が気づかない時もある」などのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	28	3	0	2
28名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。子ども主体の対応が実践されている様子がうかがえる。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	23	1	0	9
23名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答している。子どものプライバシーが守られている様子がうかがえる。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	25	2	1	5
25名が「はい」、2名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。子どもの不満や要望に職員が対応している様子がうかがえる。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	9	4	3	17
9名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」、17名が「非該当・無回答」と回答している。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float:right">○非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float:right">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えるている <span style="float:right">○非該当</span>
	カテゴリー1の講評	
	ミーティングを通して、理念や方針への職員の理解を深めている 理念として、児童の安全な遊び場の確保、集団遊びの中から社会性を養う、自由な遊びや様々な体験を通して創造性や自主性を養う等を掲げている。ロングミーティングにおいて、理念や基本方針に関する職員同士の共有を図っている。全員が一度に集まるのが難しいため、ミーティングノートを通じて内容を共有し、理解を深めるよう努めている。日々の業務の中でも基本方針の意味について口頭で伝える場面が多く、職員の行動に理念が自然と結びつくよう意識している。	
	ミーティングで子どもの様子について話し合い、より良い方向に進むよう取り組んでいる 常勤職員と会計年度任用職員のミーティングを通じて、理念の共有や振り返りの機会を設けている。事務局長は職員一人ひとりの子どもへの見方の違いを尊重しつつ、他の職員の良い実践を参考にすることで育成の質を高めてほしいという思いを持ち、リーダーシップを発揮している。臨時職員はそれぞれ違う時間帯で勤務するためミーティングに参加していないが、事務局長が臨時職員向けのマニュアルのハンドブックを作り、臨時職員全員に配布している。こうした取り組みから、経営層が理念の実現に向けて組織を牽引している様子がうかがえる。	
	安全を最優先する方針について職員に伝え、実行に移している クラブでは、安全を最優先する方針を明確に打ち出し、事務局長らが職員に対して自らの役割と責任を表明しながら運営をリードしている。また、業務日誌の裏面には「安全確認チェックリスト」が設けられており、遊具の破損や活動場所の安全、不審者の有無、危険箇所の確認、体調不良の児童の把握、子ども同士のトラブル、全児童の下校確認、保管庫の施錠状況など、細やかな項目に基づいて毎日点検が行われている。こうした取り組みを通じて、職員一人ひとりが安全への意識を高め、理念の実現に向けて一丸となって行動している様子がうかがえる。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>日常の会話などから、子どもや保護者の意向や要望を把握するように努めている</p> <p>子どもや保護者との日常的な会話や、連絡協議会の保護者代表の意見等を通じて、子どもたちや保護者の意向や要望を把握するよう努めている。入会間もない一年生は友達との関係も定まらず、トラブルが多いが、職員が仲介役となり解決に導いている。職員とおしゃべりしたい、という子どもの欲求も満たすよう、会話を大切にしている。また、職員の意向についても運営に反映する姿勢が見られ、地域の福祉状況や行政の動向にも関心を持ち、必要な情報を収集している。環境変化に柔軟に対応し、課題解決に向けた計画の策定と実行に活かしている。</p> <p>クラブの現在の課題を把握し、子どもたちの環境について関係機関と共有している</p> <p>保護者との問題が生じた際は児童館長と連携して対応するようマニュアルに定められている。過去に保護者同士のトラブルが起きた際に児童館長と解決した。国立・私立小学校に通う児童も多く、来所・帰宅時刻が多様であることから柔軟な対応が求められている。近隣の民設民営学童クラブは80人定員となり、当該小学校の児童が8割、その他の小学校の児童が2割と定められている。民設民営学童クラブの定員を超えた児童は当クラブに入会するため籍人数の増加が見込まれる。連絡協議会で民設民営施設長や小学校長と今後の対応について話し合われている。</p> <p>理念やビジョンの実現に向けた取り組みを進めているが、課題克服への検討に期待したい</p>		

クラブでは、区が掲げる理念やビジョンの実現に向けて、職員の役割や活動内容を子どもたちの実態と照らし合わせながら明確にし、進捗状況を毎日のミーティングや毎月のロングミーティングで確認している。異年齢の子どもたちが楽しく交流できる環境づくりを特色とし、校庭や体育館などでも集団遊びの楽しさを伝えている。しかし、児童数の増加や共働き家庭の増加に伴う保護者の働き方の変化により、定員を設けずに受け入れている現状の中で、活動の広がりや異年齢間の交流の促進が課題となっている。課題克服に向けた今後の検討に期待したい。

3 経営における社会的責任			2/2
サブカテゴリ-1 (3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当	
サブカテゴリ-2 (3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当	
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当	
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当	
サブカテゴリ-3 (3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当	
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当	
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当	

### カテゴリ3の講評

#### 職員は守るべき規範や倫理を理解し、全員で虐待防止に取り組んでいる

全職員に対して、ミーティングやミーティングノートを通じて、個人の尊厳を含む倫理的事項の周知と理解促進を図っている。区から送付された虐待防止の確認シートに職員全員で取り組むなど、外部からの指導も積極的に活用している。日常的には、指導員が臨時職員に対して口頭で倫理的な注意喚起を行い、経験値の違いを尊重しながらも互いの良さを吸収し、クラブ全体の質向上を目指す姿勢が見られる。職員自己評価においても、全員が権利擁護に取り組んでいると記載されており、社会的責任を果たす意識が浸透していることがうかがえる。

#### 苦情対応は決められた手順で行われており、保護者の不安を軽減するように努めている

クラブへ苦情が寄せられた際には、常勤職員が初期対応を行い、必要に応じて事務局長や児童館長へ対応が引き継がれる体制が構築されている。保護者の不安が軽減されるよう、普段の安全管理に気を配っている。保護者から問い合わせがあった時に適切な対応ができるよう、事務局長や常勤職員は子どもたちの状況を把握している。早期(子どもが一年生の時)に保護者と関係性を築き、円滑なコミュニケーションができるようにしている。また、職員の顔写真や名前を学校だよりに掲載してもらっており、保護者や地域にも周知している。

#### 地域の行事の情報収集を積極的に行い、子どもたちが参加できるように周知している

地域との関係作りとして、年2回の連絡協議会を通じて小学校や地域住民との交流を図っている。小学校の「親父の会」主催のキャンプや、地域主催の花火大会などの行事に子どもたちが参加できるよう呼びかけるなど、地域行事への積極的な関与も見られる。学校内の行事の時は学童から送り出し、行事終了後はBOPで受け入れている。大学等からの要望があれば区と相談の上、実習生の受け入れを行うようにしている。近隣の大学生の卒業論文のための協力も行うなど地域の教育機関とも協力体制が取られている。

4			カテゴリー4		
リスクマネジメント					
サブカテゴリー1(4-1)					
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		4/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる			評点(○○○○●)		
評価	標準項目				
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている				○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている				○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している				○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる				○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる				○非該当
サブカテゴリー2(4-2)					
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			評点(○○○○)		
評価	標準項目				
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている				○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している				○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている				○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している				○非該当
カテゴリー4の講評					
<p><b>火災、地震、不審者を想定し、子どもや職員と避難経路の確認などを行っている</b></p> <p>災害等を想定し、子どもたちが参加する火災や地震の避難訓練が行われ、職員対象に不審者対応訓練が行われている。それぞれ計画書が作られ、ミーティングで反省点を共有し、報告書を作成している。クラブ内の訓練とは別に、三学期には小学校と合同で火災避難訓練を行っている。子どもがBOP室と学校に分散している時間帯を想定した実効性の高い訓練が実施されている。訓練前には学校側と手順を確認し、訓練後には反省点の振り返りを行うなど、災害発生時に備えた継続的な改善が図られている。また、職員全員が消防署の上級救命講習を受講している。</p> <p><b>毎日遊び場や遊具の点検を行い、危険箇所が無いよう安全管理に気をつけている</b></p> <p>災害や深刻な事故等に備えた安全対策マニュアルを整備している。子どもの小さいけがについては応急処置を行い、保護者には子どもから伝えるように促している。大きいけがや事故は事故報告書に記載し、保護者に連絡を取っている。遊び場所の再点検や再発防止策を職員間で話し合い、昼のミーティングや夕方の臨時職員のミーティングで共有されている。校庭の固定遊具は自由に使えるが、職員の出勤状況で目が行き届かず使えない場合は出入口のところに分かりやすく表示している。子どもたちが降所する際は一度集合させ、落ち着いてから送り出している。</p> <p><b>個人情報の管理を徹底し、個人が特定されないよう注意して退勤時に書庫を施錠している</b></p> <p>児童台帳や個人情報が記載された書類は鍵付きロッカーで保管され、職員の退勤時に施錠が確認されるようになっている。以前は子ども一人ひとりの情報を記載したファイルがあったが、今は利用されていない。すべての情報はミーティングノートに記載され、常勤職員と指導員が共有している。業務日誌には個人が特定される記述を避けている。パソコンの通信手段のセキュリティが厳しく、外部とのやり取りの際はサポートセンターに解除を依頼してつなげている。情報活用における不便さはあるが、セキュリティや情報漏洩対策を優先している。</p>					

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当

あり なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

非該当

## カテゴリー5の講評

### 臨時職員として近隣の大学生を多く採用し、子どもと接する経験につなげている

臨時職員の採用は事務局長の裁量で行われている。近隣大学の教員志望の学生を中心に、部活動の仲間を通じた紹介などで人材を確保している。学生たちは子どもと接する経験を積む場として意欲的に参加しており、現在18名が臨時職員として活動している。学生のマナーや身だしなみにも注意を払っている。しかし、臨時職員の総予算が確定しているため一人ひとりの勤務時間が短く、長時間勤務を希望する学生のニーズには応えられていない。200人以上の子どもや、配慮の必要な子どもの増加に対し、安定的な職員数を常に確保することが課題となっている。

### 区の研修や経験者による新人職員へのOJTなどにより、職員の育成を図っている

常勤職員は区の研修計画に沿って受講し、会計年度任用職員も児童課からの案内により希望者が研修に参加している。研修後には、学んだ内容を実践に活かす姿勢が確認され、研修の効果が現れている。一方で、会計年度任用職員の研修履歴が事務局長に把握されていないことから、育成の成果を個別に確認し、計画に反映する仕組みには課題がある。OJTでは新人や臨時職員が指導員のもとで一日の流れを学び、助言を受けながら振り返りを通じて成長が見られている。今後は、要配慮の子どもへの対応や、子どもの発達理解に関する研修への参加が期待される。

### 職員が研修後に学んだことを共有しながら、チームとして業務にあたっている

職員一人ひとりの学びや気づきを共有している。研修内容は打ち合わせの場で報告し合い、職員間で知識や経験を共有することで、サービスの質の向上や業務改善につなげている。また、日常業務における気づきや工夫も互いに話し合い、課題解決に向けたチームでの活動が効果的に進むよう工夫されている。行事などでは、職員がそれぞれのスキルを活かしながら計画する姿が見られている。子どもと接する職員として地域への愛着を持ち、人との触れ合いを大切にしながら、高いコミュニケーション力とプロ意識を備えた人材育成に努めている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【重要課題】

子どもの安全な遊び場の提供

在籍人数が多い学童クラブとして、子どもたちがけが無く安全に過ごせる場所の提供をしているが十分な活動ができない

【取り組み】

小学校の好意によりクラブ室の他に、校庭、体育館、算数教室、学習室、図書室等借用してそれぞれの場所で子どもたちを遊ばせている。

【取り組みの結果】

子どもたちは遊びの種類により遊び場を選んで室内遊びや外遊びができた。子どもの気持ちを落ち着ける場所の確保ができた。

職員体制が整わない時は固定遊具の使用を制限する日もあった。学校も授業中はいずれの部屋も使用できない。

図書室も借りているが部屋の使い方を子どもたちに周知できていないため、まだ利用していない。

【今後の方向性】

小学校との連携を維持し子どもたちが楽しく安全に過ごせるよう遊びの工夫や部屋の使い方の工夫を行っていききたい。本好きの子どものために図書室の利用も行っていききたい。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

子どもの安全な遊び場の提供を重要課題として位置づけ、前年度に具体的な目標を設定し、組織的な取り組みを行ってきた。在籍児童数が多い中で、けがなく安全に過ごせる環境の確保に努め、小学校の協力を得てBOP室2部屋に加え校庭や体育館、BOP室に隣接している算数教室、学習室、図書室など複数の場所を活用することで、子どもたちが遊びの種類に応じて選択できる環境を整えた。室内外での多様な遊びが可能となり子どもの居場所が分散されトラブルやけがの削減が図られている。職員体制の都合により固定遊具の使用制限や、授業時間中はそれらの場所や教室が使えないといった課題も残った。特に図書室については借用可能であるものの、子どもたちへの正しい図書室の使い方の指導や職員配置ができない関係でまだ使用していない。今後は、引き続き小学校との連携を維持しつつ、遊びの内容や部屋の使い方の方に工夫を凝らし、子どもがより安全かつ楽しく過ごせる環境づくりを推進するとともに、本好きの子どものためにも図書室の活用が望まれる。

**評価項目2**

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

**前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)****【重要課題】**

学年を超えた児童間の遊びを通じた交流の促進と子どもの創造性や自主性、社会性を養う。  
異学年が一つの遊びをするうえで体力や能力の差を考えたルール作りを行う。子どもたちで集団遊びを成立させる。

**【取り組み】**

異年齢集団の遊びの楽しさを教えるため、ドッジボールなどは1年生が入るときは柔らかいボールを使用し当たってもこわくないように配慮する。コートの方広さも考える。低学年でも分かりやすいルールに変更する。

**【取り組みの結果】**

低学年でも楽しむことができた。上級生は下級生に手加減することも覚えた。スポーツ系の遊びに参加者が増えた。ダンスも指導する大人がいるときは女子が参加して楽しんだ。

**【今後の方向性】**

1年生に配慮した異学年が互いに楽しめる場を多く提供していきたい。  
子どもたちが色々な遊びに興味を持って参加できるようにしていきたい。

昔遊びにも挑戦してほしい。

女子が興味を持つ遊びを模索していきたい。

目標の設定と 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない</li> </ul>
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

**評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評**

事業所の理念・基本方針の実現に向けて、学年を超えた児童間の交流を行い、子どもの創造性・自主性・社会性を育むことを重要課題として位置づけ、前年度に具体的な目標を設定し取り組みを進めてきた。  
異年齢集団での遊びの楽しさを伝えることを軸に、ドッジボールでは柔らかいボールの使用やコートの方広さの調整、低学年にも理解しやすいルールへの変更など、体力や能力差への配慮がなされた。その結果、低学年の子どもも安心して参加できるようになり、上級生は下級生への思いやりを学ぶなど、交流の質が向上した。スポーツ系の遊びへの参加者が増加し、ダンスでは指導者の存在により女子の参加も増え、楽しむ様子が見え始めた。  
この成果を踏まえ、今年度以降は一年生への配慮を継続しつつ、異学年が互いに楽しめる遊びを増やし、色々な遊びの経験や昔遊びに挑戦してほしいと感じている。現在は女子児童の興味を引く異年齢集団遊びが少ないので、子どもの意見を聞く等について検討していくことも期待される。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ-1の講評		
<p>ホームページやアプリで事業内容をわかりやすく伝え、利用希望者へ情報提供している</p> <p>区のホームページでは、新BOPの事業内容やBOPと学童クラブの違いを丁寧に説明している。次年度入会申請に関する情報も掲載しており、新規希望者が理解しやすくなっている。クラブでは月1回「新BOPだより」を学校アプリで保護者に配信し、確実に家庭へ届けている。東深沢小以外の家庭には他の連絡アプリで対応している。表面には保護者向けのお知らせや日常の遊び、異年齢交流、けが対応の範囲、在籍増による運営の難しさなどを掲載して協力を呼びかけ、裏面には子ども向けの行事予定を載せるなど、対象を意識した構成となっている。</p> <p>掲示や言葉の工夫により、子どもが自分で考えて行動できる環境づくりを進めている</p> <p>日々の活動情報は、子どもたちの目に入りやすいよう、BOP室入口のホワイトボードに掲示している。その日の遊べる場所や内容を明記し、子どもが自分の興味に応じて行動できるようにしている。また、毎月のイベント予定はイラストやわかりやすい言葉で示し、子どもが楽しみにしながら予定を把握できるよう配慮している。見てわかりやすい掲示は、低学年の子どもにも理解しやすく、主体的に行動したり見通しをもって過ごしたりする姿につながっている。ただ情報を伝えるだけでなく、子どもの理解や自立を支える仕組みとして機能している。</p> <p>新年度入会に向けた見学や説明に柔軟に対応し、保護者との関係づくりを行っている</p> <p>クラブでは、管轄の児童館に新BOPだよりの掲示を依頼し、地域への情報発信を行っている。また、保護者からの見学希望には、個々の事情に応じて調整して対応している。就学時健診の日には、保護者や子どもが多数訪れるため、常勤職員が活動内容や方針を説明するほか、子どもたちが遊ぶ様子も見てもらい、入会後をイメージしてもらっている。さらに、次年度の入会申請書類提出時は、保護者が必ずクラブを訪れる機会でもあり、必要な説明や案内を行っている。こうした取り組みにより、保護者との関係づくりを進めている。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 8/8
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
<b>サブカテゴリー2の講評</b>		
<b>入会時に保護者へ丁寧な説明を行い、安心して利用できる環境を整えている</b> 入会説明会では、資料を用いて学童クラブや新BOPの基本ルール、育成料や保険などの重要事項を説明している。連絡アプリの使い方も詳しく紹介し、卒所後の自立を見据えた家庭での過ごし方の工夫なども伝えている。東深沢小以外の保護者には、学校の年間・月間スケジュールの提出を依頼し、必要な個別対応ができるようにしている。質問にはその場で答え、保護者の要望や相談にも応じ、説明会の内容を記録して職員間で共通理解を図っている。サービス開始にあたり、子どもや保護者が安心して利用できる環境を整えている。		
<b>入会初期の不安軽減や安心した生活のため、丁寧な支援と環境づくりを行っている</b> 入会時には、児童台帳を活用して家族構成や成育歴、個別の状況を把握している。4月当初に、職員全員で子どもの様子を共有する機会を持っている。子どもたちには生活の流れやルール、困り事の伝え方などを丁寧に伝え、春休み中の学習時間は塗り絵や折り紙で過ごすなど、環境に慣れる工夫がなされている。一年生の利用開始後には歓迎イベントを企画し、二・三年生の協力を得ながら、クラブが楽しい場所と感ぜられるようにしている。また、クラス担任と入会前の生活状況を含めた情報共有も行っており、協力しより良い支援につなげている。		
<b>卒所後も児童館とのつながりを通して、地域の中で過ごせる環境が整っている</b> 年度末で学童クラブ期間終了の子どもや保護者の不安に配慮し、BOPの利用を勧め、希望者には昼食の個別対応が可能であることも案内している。毎年、学童クラブでは児童館まつりへの出店を行い、さらに、児童館のドッジボール大会練習会やかるた大会などの事業を新BOPで実施することで、子どもが児童館職員と関わる機会を設けている。三年生の中には、在籍中から帰宅後に児童館で遊ぶ子どももあり、卒所後も安心して地域で過ごすことができている。こうした取り組みにより、学童クラブから地域活動への自然なつながりが生まれている。		

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の  
標準項目実施状況

10/10

評価項目1

子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している

評点(0000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当

評価項目2

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当

評価項目3

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評

子どもの発達や家庭状況に応じた丁寧な支援に努め、保護者との連携を図っている

子どもの発達段階や生活の様子、保護者の思いを受け止めながら、年間の支援計画を立てている。新入生には、クラブでの生活に慣れるまで一人ひとりに寄り添い、安心して過ごせるよう丁寧な関わりを心がけている。発達面に配慮が必要な子どもには個別支援計画を作成し、状況の変化を把握しながら定期的に見直している。また、保護者には入会説明会や面談を通じて支援内容を伝え、共に子どもを見守っている。日々の子どもの状況は職員間で共有し、それに応じて支援内容を調整しながら、適切な対応を行っている。

日々の職員間での情報共有をミーティングノートに記録し、支援に活かしている

子どもたちの日々の様子やトラブル、気になる行動は、毎日のミーティングで話し合い、ノートに記録している。配慮を要する子どもについては、児童票や面談で得た情報を基に、必要な対応についてミーティングノートに記録・共有し、支援に活かしている。特に、支援が難しい場面では、職員が情報を持ち寄って話し合い、記録として残している。また、全体として子どもの良い面や努力も積極的に共有し、前向きな視点で成長を支えている。こうした情報共有の積み重ねが、保護者との信頼関係や、安心して過ごせる居場所づくりにつながっている。

職員全体で子どもや保護者の状況を共有できるよう体制を整えている

日々のミーティングやロングミーティングでは、子どもの様子を共有し、全職員が子どもの姿を共通理解できるようにしている。気になる事例についても話し合いを重ね、対応方法を検討している。プレイングパートナー向けに、ノートに遊び方の細かいルールまで記録し、引き継ぎに活かしている。保護者や子どもの状況に変化があった場合には、日々確認しながら対応している。また、行事の翌日には振り返りを行い、子どもたちの状況に応じた次回の行事を提案し合い、職員も楽しみながら子どもと共感し、より充実した支援につなげている。

サブカテゴリー5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 <span style="float: right;">サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5</span>
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している <span style="float: right;">○非該当</span>
<b>評価項目2</b> サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している <span style="float: right;">○非該当</span>
サブカテゴリー5の講評	
<p><b>子どものプライバシーを尊重し、個々の状況に応じて安心して過ごせる環境を整えている</b></p> <p>子どもに関する情報を外部とやり取りする際は、必ず保護者の同意を得たうえでやっている。けがなどで受診が必要な場合には、保護者に連絡して相談し、医療機関での個人情報の取り扱いについても承諾を得ている。また、嘔吐やおもらしの際には、ほかの子どもにからかわれないよう十分に配慮し、着替えが必要な場合は職員の更衣室を使用して行っている。さらに、配慮を要する子どもや気持ちが高ぶった子どもには、学校の個別学習室を借りてクールダウンの時間を設けている。一人ひとりの状況に寄り添いながら、安心して落ち着ける環境を整えている。</p> <p><b>子どもの主体性を育みながら一人ひとりを尊重し、家庭の状況に合わせ支援している</b></p> <p>区の子どもの権利条例や学童クラブ運営基準に基づき、子ども一人ひとりを尊重し、丁寧に寄り添っている。日々の会話を通して子どもの考えや要望を聞き取り、意見箱の活用などにより活動内容に反映させ、主体性を育む工夫をしている。子どもや保護者の生活習慣や価値観にも細やかに配慮し、関わりが難しい外国籍家庭には学校と連携して丁寧に対応している。お迎え時の会話や個人面談を通して保護者の考えを把握し、職員間で共有して支援に活かしている。日々、子どもたちが自分らしく安心して過ごせる居場所となるよう努めている。</p> <p><b>クラブでは、小さなトラブルにも早めに対応し、情報共有でいじめ防止に努めている</b></p> <p>職員は、学童クラブ内での暴力やいじめを防ぐため、日常の中で小さなトラブルにも目を配り、早めに対応している。大きく発展しそうな兆しがあった場合には、学年ごとに子どもを集め、いじめにつながる行為であることを伝えている。友だちを傷つける言葉を発している時には、すぐに話を聞き、自分がされたらどう感じるかを考えるよう促している。気持ちが高ぶりやすい子どもには早めに声をかけ、未然に防ぐようにしている。子どもが安心して過ごせる環境を保つため、職員全員で情報を共有し、予防的な取り組みを継続している。</p>	

サブカテゴリー6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している <span style="float: right;">○非該当</span>
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている <span style="float: right;">○非該当</span>
サブカテゴリー6の講評	
<p><b>区で整備されたマニュアルは、ミーティングや内部研修を通じ確認・共有している</b></p> <p>クラブでは、区が整備している児童健全育成事業運営方針や安全対策、けが対応、災害対応などの各種マニュアルを定期的にロングミーティングで確認している。てんかん対応やノロウイルス対応マニュアルについては、看護師による研修で確認している。職員全員が理解を深められるよう努め、ミーティングに参加しないプレイングパートナーには、ノートで服務規程や子どもへの具体的な対応方法を細かく伝えている。避難訓練は、マニュアル内容に基づいて実施し、非常時の支援に活かせるよう努めている。</p> <p><b>各行事について手順書を作成し、計画や振り返りを大切にして実施している</b></p> <p>年間の行事は、イベントごとの担当者が計画段階で子どもの行動や職員対応の流れを整理し、手順書を作成して実施している。行事終了後の翌日にはミーティングで振り返り、意見や反省点、課題などを出し合って報告書にまとめ、手順書も更新して次回の行事に活かしている。職員がマニュアルや手順書を参照し共通理解を深めることで、支援の流れや対応のまとまりが保たれ、落ち着いて取り組める運営につながっている。日々の共有の積み重ねが、職員の成長と子どもへの支援をより充実させる土台となっている。</p> <p><b>子どもたちや保護者の意見を聞き、情報共有でチーム力を上げ支援に努めている</b></p> <p>子どもたちの意見を取り入れるため、一定期間意見箱を設置し、日々の遊びや行事の希望などを活動内容に反映している。保護者からの意見や要望も、面談やお迎え時の会話を通して聞き取り、改善や工夫に活かしている。年度末にはロングミーティングで年間の運営目標に沿った全体的な振り返りを行い、成果を共有するとともに課題を次年度への改善につなげている。職員の経験や対応力の個人差について互いに補い合いながら、チーム力を上げていくことで、より良い支援を目指している。</p>	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		29 / 29	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>多様な背景の子どもが在籍しており、職員が柔軟に対応できる体制が整っている</p> <p>学童クラブには一年生73人、二年生56人、三年生64人、四年生1人の計194人が在籍しており、うち私立小学校の児童も18人含まれている。食物アレルギー児童、配慮が必要な児童、外国籍児童など、多様な背景を持つ子どもたちが通っている。入会前に提出されている児童台帳や児童票等で子どもの状況の把握がなされている。職員は常勤・非常勤が15人、他にプレイングパートナー(臨時職員)が一日1~3人という体制で子どもたちの育成を行っている。日々のミーティングを丁寧に行い、子どもの様子や対応方法を共有して柔軟に対応している。</p> <p>学年差に応じた声かけや遊びの工夫で、異年齢の関わりと成長が支えられている</p> <p>学年ごとの違いを意識した関わりがあり、特に三年生には上級生としての自覚を促す声かけがされている。喧嘩の際には双方の言い分を丁寧に聞き、不公平感が生じないよう配慮した対応がなされている。遊びの場面では、一年生とドッジボールをするときには柔らかいボールを使用している。ウォーキングサッカーやTボールなど遊びの内容やルールを工夫した活動を通じて異年齢の子どもたちが一緒に楽しめるよう援助されている。こうした取り組みは、子ども同士の関係性を育みながら、それぞれの発達に応じた支援につながっている。</p> <p>掲示や環境整備に配慮し、子どもが安心できる情緒的支援が丁寧に行われている</p> <p>掲示物は子どもの目の高さに掲示し、ひらがなを多用している。クールダウンできる場所の確保など、情緒面への配慮もしている。学校の算数教室や個別室の利用、保護者との連携による対応など、外部資源も活用しながら支援が行われている。気持ちの切り替えが難しい子どもには別室で保護者に状況を伝えるなど、子どもや保護者の気持ちに配慮しつつ、保護者と共通認識を持って育成するよう努めている。食べ物へのこだわりがある子どもへの対応も、公平感を大切にしながら進められている。クラブ全体で、子ども一人ひとりを尊重した支援が実践されている。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>異学年で遊べる工夫や役割分担を通じて、自然な交流と主体性が育まれている</p> <p>同学年だけでなく、異学年の子どもと一緒に遊べるような工夫が随所に見られる。集団遊びの前にはルールや決まりごとを確認し、子どもたちが安心して参加できるよう配慮されており、トラブルの予防にもつながっている。三年生には、遊びの中で見本となるような役割を意識させる声かけがされており、たとえばチーム分けを任せるなど、主体的な関わりを促している。年度初めには一年生歓迎会として「お屋さんごっこ」が行われ、二、三年生が店員役、一年生が客として参加することで、異学年交流の機会が自然に生まれている。</p> <p>職員間の情報共有と丁寧な支援により、集団生活が豊かに展開されている</p> <p>「人の嫌がることはしない」といった基本的な姿勢が日常的に指導されており、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに役立っている。職員は毎日ミーティングを行い、子どもの様子や対応方針を共有している。プレイングパートナーにも業務前後に状況説明と振り返りを行うことで、支援の一貫性と質の向上が図られている。常に子どものそばに大人がいる体制が整えられており、必要な場面で迅速な対応が可能となっている。子どもたちの生活力と社会性が着実に育まれ、個々の生活と集団の生活が豊かに展開されている様子がうかがえる。</p> <p>遊具の自由使用や予定掲示により、子どもが主体的に遊べる環境が整えられている</p>			

室内には座卓が並べられ、子どもが置き場から遊具を自由に持ち出して遊べるよう環境が整えられている。学童クラブ室の入り口には「きょうのよてい」が掲示され、おやつの時間や内容、校庭・体育館での遊びと時間、その他の場所の使用可否が視覚的に示されている。校庭での遊びについては、活動ごとの場所の区分けを図で示して、子どもが活動のイメージを持ちやすくなるよう工夫されている。また、「ぼうしとすいとうをもっていきましょう!」といった注意事項も掲示され、子どものスムーズな行動を促し、熱中症予防など健康面への配慮もなされている。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目3の講評

**誕生日工作や指導員イベントを通じて、子どもの主体性と特別感が育まれている**

年間計画に沿って、毎月「誕生日ブラバン工作」と「指導員イベント」が実施されている。誕生日ブラバンは該当月の子どもが申し込む形式で、特別感を味わえる内容となっている。指導員イベントは、月ごとに担当者が内容を検討し、時には子どもと一緒に計画・準備を行うなど、主体的な関わりが促されている。活動には伝統的な遊びも取り入れられており、遊び方を覚えるだけでなく、検定や記録への挑戦、トーナメント戦などを通じて、楽しみながら意欲的に取り組める工夫がされている。子どもが安心して主体的に過ごせる環境が整えられている。

**児童館との連携で、主体性や異学年交流を育む活動が広がっている**

地域の児童館まつりでは、学童クラブの二、三年生の希望者が実行委員として参加し、1つのコーナーを担当している。子どもたちは準備や運営について相談しながら進めており、主体的な関わりが促されている。また、児童館の新年子ども大会で行われるかるた大会に向けて、クラブでは日常の遊びにかかるたを取り入れ、子どもの意欲を高めている。さらに、児童館対抗ドッジボール大会に参加する子どもたちの練習相手を務めることで、新BOP以外の子どもたちと遊びを通じて交流する機会となり、異学年のつながりも生まれている。

**子どもの意見を反映し、節目を大切にされた柔軟な行事運営を行っている**

子どもたちの成長に応じて、やりたい遊びや挑戦してみたいことを自ら提案できる機会が設けられている。意見ボックスを一定期間設置し、一人ひとりの声を丁寧に集めている。行事は年度初めに固定せず、子どもの反応や希望に応じて柔軟にイベントを企画している。毎月の指導員イベントでは、子どもと一緒に計画を立てる取り組みも行われている。また、年度当初には入学を祝う一年生向けイベント、進級の時期には進級・お別れ会など、子どもの意見を取り入れた行事を実施しており、節目を大切にする姿勢が感じられる。

4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当

評価項目4の講評

**遊びを通じた自然な関わりで信頼関係を築き、安心感を育んでいる**

友達との関わりが難しい子どもや、一人で過ごすことが多い子どもには、職員が仲立ちとなり、興味のある遊びを一緒に楽しむことで関係づくりを支援している。子どもへの支援は、過度に介入せず、自然な関わりを大切にしている。一年生は、四月には疲れて寝てしまうこともあるため、上映会など静かに過ごせる時間も設けている。来所予定の子どもが来ない場合には保護者に連絡し、必要に応じて職員が捜索に向かうなど、安全面への配慮も徹底している。日々の丁寧な対応により、子どもと保護者の安心感を得ている。

**視覚的工夫により、子どもが予定や作業を自分で理解できる環境を整備している**

連絡ノートからアプリへの変更により、子どもが帰宅時間を把握しづらい面もあるが、学年が上がるにつれ自分で理解できるようになっている。学童クラブでは出席確認後に帰宅時間を確認し、学年や帰宅時間に応じておやつを複数回に分けて提供している。室内にはその日の予定が掲示されており、子どもが見通しを持ちやすくなっている。机で遊べるおもちゃも豊富に揃えられ、新しいものも随時追加されている。のりを使う作業には「のりマット」が用意され、使用後の置き場所も明示されており、子どもが視覚的に理解できる工夫がされている。

**放課後子供教室と学童クラブを一体運営し、安心できる放課後の居場所を提供している**

新BOPでは、BOP(放課後子供教室)と学童クラブを一体的に運営している。利用時間・利用料・出席確認・おやつなど、学童クラブ独自の内容はあるものの、学童クラブの子どもはBOP利用の子どもとともに夕方まで過ごすことができている。職員は新BOP全体に関わり、日ごとに役割を分担しながら子どもの育成にあたっている。また、学童クラブに一度立ち寄りながら民間学童へ移動する児童も多く、保護者や職員間で密に連絡を取り合っている。放課後の居場所として、子どもが安心して過ごせる環境づくりに努めている。

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p><b>在籍児童数が多く、校内施設の広範な利用に学校の協力を得ている</b></p> <p>学校との連携は日常的に行われており、何かあれば速やかに連絡を取る体制が整えられている。特に、入学式や集団下校指導の時期には、学校との情報共有を密に行い、一年生への対応に不備がないよう努めている。在籍児童数が非常に多いため、校庭・体育館・新BOP室に加え、算数教室・学習室・図書室など、学校のさまざまな教室を活用させてもらっている。こうした学校の多大な協力により、「気持ちを落ち着かせる部屋」としての環境も確保され、配慮が必要な子ども等への個別支援につなげている。</p> <p><b>職員間でアレルギー情報を共有し、地域機関とも協力体制を築いている</b></p> <p>食物アレルギーのある子どもについては、事前に保護者からアレルギー調査書を提出してもらい、状況を把握している。学校でのアレルギー面談にはクラブ職員も同席し、保護者・学校・クラブ間で情報共有を行っている。提出された情報は個別にファイル管理し、職員ミーティングで共有・記録している。また、児童館、児童課、地域学校連携課、他の学童クラブとも情報交換を行い、地域全体で子どもを支える体制づくりを進めている。必要に応じて、子ども家庭支援センターとも連携できる体制を整えている。</p> <p><b>保育園・学校・家庭と連携し、専門的助言を活かして柔軟に育成している</b></p> <p>児童票が提出されている子どもについては、保護者の了承を得たうえで、児童課を通じて保育園から直接情報を得ることができている。学校ともこまめに情報共有を行い、日々の様子を把握したうえで育成にあたっている。配慮が必要な子どもへの対応については、課が実施する巡回相談や巡回指導の機会を活用し、専門的な視点から具体的な助言を受けている。これにより、子どもの安全と安心が確保され、個々の状況に応じた柔軟な対応が可能となっている。家庭や専門機関とのつながりは、子どもの日々の生活を支える大切な基盤となっている。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p><b>おやつ提供において健康・安全・個別配慮が行き届き、安心できる環境が整っている</b></p> <p>おやつは、14時45分頃から16時頃までの間に、子どもの帰宅時間に合わせて複数回に分けて提供されている。通常は個包装のお菓子三つと麦茶が提供されており、曜日によっては乳製品、果物、ジュース、調理品なども提供されている。果物の日には、出席人数に応じて職員が切り分けて提供している。アレルギーのある子どもには専用の時間を設け、その日の最初に提供して、誤食の防止に努めている。特定の病気がある子どもには通常食を提供しつつ、アレルギー児と同じ時間帯で机を分けるなど、個別の配慮もなされている。</p> <p><b>子どもの気持ちを尊重しつつ、おやつの内容や提供方法の見直しが課題となっている</b></p> <p>おやつは、呼ばれた子どもが手洗いの後、配膳場所に並んで順番に取る方式で提供されており、食べるまでに時間がかかることもある。また、自分で取ったおやつを食べられない子どもには声をかけて促してはいるが、無理強いはいしないようにしている。おやつより遊びを優先する子どもも多く、食べないまま廃棄となってしまうこともある。おやつが子どもの「お楽しみ」として機能していないとの声もあるが、子どもの気持ちを尊重しながら対応している様子がうかがえる。今後は、より魅力的なおやつの内容や提供方法の工夫を検討していくことに期待したい。</p> <p><b>選択の幅は限られるが、安全面と個別対応に配慮しながらおやつを提供している</b></p> <p>おやつは区の担当者から委託業者に依頼している。メニューも委託業者が作成している。クラブではメニュー表の確認を行っている。クラブからの希望は伝えてはいるが、選択の幅は限られている。おやつは週に一度納品されているが、アレルギーのある子どもの保護者には事前にメニューを確認してもらっており、安全面への配慮が徹底されている。食物アレルギーのある子どもには「特別食」「特別食の小麦なし」「通常食から除去」の対応がされている。提供は常勤職員とおやつ担当指導員が行い、トラブルが起こる前に対応できるよう心がけている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもが体調や気持ちの変化に自ら気づき、伝えられるよう指導している</p> <p>子どもたちには、体調や気持ちに変化があった際には大人に伝えるよう、日頃から指導している。熱中症予防として水分補給に配慮し、自分の水筒や学童クラブで用意している麦茶を自由に飲めるようにしている。休憩室はないが、事務室に簡易ベッドを設置し、体調不良時の対応に活用している。クラブに子どもがけがをした状態で来所した際には、家庭に連絡を取り、遊び方について保護者の判断を仰いでいる。こうした取り組みは、子どもが安心して過ごせる環境づくりに役立っている。</p> <p>マニュアルに沿ったけが対応と衛生習慣の定着支援が丁寧に行われている</p> <p>けがへの対応はマニュアルに沿って行われている。状況に応じて冷却・洗浄・止血などを行い、頭部の腫れなどの場合には速やかに病院を受診し、適切な判断と対応がなされている。手洗いやうがいの声かけも継続的に行われ、衛生習慣の定着に努めている。薬の預かりは行っていないが、アナフィラキシー対応については家庭と連携し、アレルギー調査書に基づいて病院情報や診察番号を事前に確認している。また、職員はアレルギー児童対応研修を受講し、アレルギー対応の基礎を学び、エビペン実習も行うなど、緊急時に備えた体制が整えられている。</p> <p>帽子・水筒・タオルの準備を促し、健康と安全への意識づけを行っている</p> <p>気温が高くなる5月頃から、熱中症予防に向けて、外遊び時の帽子着用、水筒の持参とこまめな水分補給、汗拭きタオルやハンカチの準備などについて、「新BOPだより」で毎月、保護者と子どもに呼びかけている。コロナ禍以降、子どもの危機管理能力の低下を職員が懸念しており、特に一人っ子や習い事が多い子どもに対しては、友達と外遊びを通じて体を思いきり動かす機会を大切にしている。猛暑日が多く、外遊びができない日や時間を限定せざるを得ない状況もあるが、可能な範囲で外遊びを取り入れ、子どもの基礎体力の向上を図る工夫がされている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>子どもや家庭の状況に応じた支援ができるよう、柔軟な体制を整えている</p> <p>クラブでは、提出されている児童台帳などを基に、利用日やお迎え時間など家庭の情報を把握し、在籍数が多い中でも柔軟に対応している。保護者からの質問にはアプリなどを通じて答え、安心して利用できるよう努めている。日本語でのやり取りが難しい保護者には、学校と連携して支援方法を工夫するなど、それぞれの家庭の事情に合わせた関わりを大切にしている。アレルギー対応の子どもについては、おやつ内容の確認を毎月行い、緊急時の体制も整えている。保護者対応は職員間で情報を共有し、誰が対応しても差異がないよう心がけて支援している。</p> <p>おたよりを通じて活動内容を発信し、日々の関わりで保護者との信頼関係を深めている</p> <p>職員は、保護者のお迎え時にその日の遊びや活動の様子を伝え、子どもの成長を共有できるよう努めている。気になる様子や子ども同士のトラブルがあった場合は電話で状況を伝え、家庭と連携して対応している。また、新BOPだよりでは活動内容や行事予定を発信し、家庭の協力を得ながら支援を進めている。個人面談では家庭での様子を聞き、クラブでの友人関係や成長の姿を伝えている。三年生には卒所を見据えた話も行うなど、学年に応じた支援を意識している。面談希望者が少ない点は課題だが、日々の関わりを通して信頼関係を築いている。</p> <p>保護者と日々連携し、子どもの安全に関する情報の共有、支援に取り組んでいる</p> <p>出欠確認や入退室の管理はアプリで行っており、状況によっては電話で個別に確認し、ダブルチェックでミス防止に努めている。出席予定の子どもが来ない場合は学校や保護者に連絡し、居場所が分からないときには職員が探しに出ることもある。また、一人帰りの際には通学路ごとに子どもを集め、落ち着いて安全に帰宅できるよう声をかけて送り出している。入会時のしおりには、鍵の管理や困った時の連絡方法、近隣との協力関係を親子で確認しておくことなどを記載し、家庭と連携して安全に関する情報を共有し、支援に臨んでいる。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p><b>地域関係者との連携を通じた情報共有と、安心できる居場所づくりに努めている</b></p> <p>新BOP連絡協議会には学校関係者や学童クラブ保護者会、青少年委員、子どもたちが参加している学校施設利用サークル、民生委員、民設民営学童クラブなど、様々な立場の方に出席依頼している。新BOPの活動内容が共有されることで子どもたちの生活への理解が深まり、前向きな意見交換が行われている。また、職員は児童館の定例会議に参加し、管轄の新BOP職員とも運営や子どもに関する情報交換をしている。在籍児や卒所児が放課後に児童館で過ごすことも多く、児童館は子どもたちにとって安心できる居場所となっており、職員も連携に努めている。</p> <p><b>児童館と連携して、子どもの行事への主体的参加や地域とのつながりを作っている</b></p> <p>児童館まつりでは、クラブで募った子どもスタッフが企画した三つのお店を出店している。準備段階から意見を出し合い、装飾や工作などの事前準備にも意欲的に取り組んでいる。職員はその過程を支援し、子ども同士の関係づくりや自主性・主体性の育成を目指している。当日は家族も訪れ、日頃の様子を共有できる場となっている。また、児童館職員が校庭で行うドッジボール大会の練習会にもクラブの時間内で参加でき、高学年を含めた子ども同士の交流が自然に生まれている。行事を通じて、子どもたちは児童館を身近に感じられるようになっていく。</p> <p><b>地域との交流を通じた多様な体験と文化にふれる機会を提供している</b></p> <p>地域の方々の協力を得ながら、子どもたちに広く多様な体験の場を提供している。例えば、七夕行事では、地域で長年活動されている方から竹を提供してもらい、季節の文化に触れる機会として活用している。また、管轄の児童館や地域団体が企画する餅つき、犬棒かるたや百人一首などの昔遊びを楽しめるイベントが開催され、子どもたちが地域の中で豊かな時間を過ごしている。当日は職員もスタッフとして参加し、地域の子どもや大人と関わることで、地域の背景やつながりをより深く理解する機会となり、日常の支援にも活かされている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-1	事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている
タイトル①	臨時職員の採用時には服務規定が記載された冊子を渡し、子どもの接し方を伝えている	
内容①	臨時職員には近隣の体育大学の学生を採用しており、スポーツ系の部活動を通じたつながりを活かした人材確保が行われている。各部屋や遊び場所に配置され、先輩職員の実践を見習いながら経験を積み、成長していく姿が見られる。また、勤務開始時にはポケットサイズの「臨時職員ハンドブック」が配布され、学童クラブの理念や服務規律、守秘義務、子ども・保護者との関わり方、社会人としての基本的な姿勢、身体接触の禁止などが明記されており、職員が安心して業務に臨めるよう配慮され、勤務に対する心構えを持つことができている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している
タイトル②	子どもの発達や安心感に配慮し、異年齢交流や役割づくりを通じた援助が行われている	
内容②	遊びの場面では、子どもの発達段階や安心感に配慮した工夫が随所に見られる。一年生とのドッジボールでは柔らかいボールを使用し、ウォーキングサッカーやTボールなど、体育館でも安全に楽しめる遊びが展開されている。異年齢の子どもと一緒に遊べるよう援助されており、関係性の構築と発達支援につながっている。集団遊びの前にはルール確認を行い、安心して参加できるよう配慮されているほか、三年生には見本となる役割を意識させる声かけがされ、主体的な関わりが促されている。子ども一人ひとりの成長を支える取り組みが丁寧に行われている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-3	日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル③	毎月の行事や地域行事への参加で他施設との交流を促し、活動の幅を広げている	
内容③	年間計画に基づき、毎月「誕生日プラン工作」や「指導員イベント」を実施している。誕生日プランは該当月の子どもが特別感を味わえる内容となっている。指導員イベントでは、子どもと共に計画・準備を行うこともあり、主体性が育まれている。活動には伝統的な遊びも取り入れ、検定やトーナメントなどの工夫により、楽しみながら意欲的に取り組めるよう配慮されている。児童館まつりへの子ども実行委員による参加や、児童館新年子ども大会に向けたかるた大会の実施などの取り組みを含め、子どもの活動の幅を広げ、成長を支える基盤となっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	職員同士の連携により安全配慮や協力体制が整い、職員間で手の足りないところを自然に補い合っている
	内容	職員同士のコミュニケーションを大切にしており、日々のミーティングを通じて子どもたちの様子を丁寧に共有している。子どもの人数が多いため、安全面にも細やかな配慮がなされており、職員同士が気持ちよく教え合う体制が整えられている。子どもが朝から来所する夏休みや行事の際の手の足りないところを自然に補い合っている。決まったことには前向きに協力し、チームとしての一体感がある。職員アンケートでも人間関係の良好さが確認されており、問題が起きた際にもすぐに確認して対応できる体制が整っている。
2	タイトル	子どもが主体的に関われるよう、遊具の配置や予定掲示、意見反映の仕組みが整えられ、安心して活動できる環境が丁寧に整備されている
	内容	子どもが主体的に活動できる環境づくりが丁寧に行われている。室内には座卓が配置され、遊具は子どもが自由に出し入れできるよう整備されており、自発的な遊びが促進されている。入口には活動時間や場所が視覚的に示されており、子どもが一日の流れを把握し、安心して過ごせる工夫がなされている。また、意見ボックスを活用して子どもの希望を活動に反映するなど、子どもの声を大切にした取り組みが実践されている。行事も子どもの反応や興味に応じて柔軟に企画され、子どもと共に計画を立てるなど、主体的な関わりを促す姿勢がうかがえる。
3	タイトル	地域関連団体と連携した児童館イベントを通じ、子どもの主体性を育む子どもスタッフの出店や昔遊び体験などへの支援を行っている
	内容	東深沢小学校地域は、地域全体で子どもを育てる意識が高く、新BOPでは連絡協議会を通じて地域関係団体との連携を深めている。また、児童館では年2回、地域関係団体と協力してイベントを開催している。児童館まつりではクラブの子どもスタッフが出店し、活動を通じ主体性を育みながら楽しんでいる。さらに、餅つきや犬棒かるた、百人一首などの昔遊びを行う新年ふかさわ子ども大会に向け、新BOPでの移動児童館として犬棒かるた体験会を行っている。当日は新BOP職員もスタッフとして関わり、地域と連携した子どもたちへの支援を広げている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	研修の報告書を児童館長だけでなく事務局長も確認し、職員の研修履歴が把握できるよう検討が望まれる
	内容	常勤職員は区の研修計画に沿って研修を受けており、会計年度任用職員も区からの案内をもとに希望する研修に参加しているが、受講対象人数が多く希望どおりの受講ができない場合がある。研修後の報告書は区に提出されるため事務局長が内容を把握しづらく、会計年度任用職員の研修履歴や資格や職歴などを毎年本人に確認している状況である。また臨時職員の育成については各クラブの裁量に任されているため統一した研修計画ができていない。研修の受講状況を一覧化し、履歴を見える形で整理し、事務局長が把握できるよう検討していくことが期待される。
2	タイトル	保護者との対話や情報共有の機会を広げ、子どもの成長を共に支えながら、安心して安全に利用できる環境づくりを期待したい
	内容	職員はお迎え時に子どもの様子を保護者に伝え、電話や連絡アプリを活用した相談や連絡体制も整っている。一方で、一人帰りの子どもが多く、保護者と直接顔を合わせる機会が限られており、情報共有が十分に行き届きにくい面もある。保護者会は実施されておらず、個人面談の参加率も低いため、入会から卒所まで職員と保護者が対話を重ねる機会の少なさが課題である。とはいえ、利用者調査では満足度が高く、日々のやりとりを通して安心して利用する家庭も多いことがうかがえる。今後は、保護者とともに子どもの成長を支える仕組みづくりに期待したい。
3	タイトル	日々の情報共有を通じて、子どもの良い面を意識して個人ファイルの記録に残し、より良い支援につなげる取組みの充実が期待される
	内容	日々のミーティングでは、子どもたちの様子や気になる点、保護者とのやり取りなどを職員間で共有し、記録に残す工夫がなされている。また、配慮を要する子どもについては、個別支援記録などを用いて情報を共有できるようにしている。一方で、個人ファイルは学年ごとに作成し、気になる行動や保護者からの相談があった際、または個人面談参加者のみの記録を入れる仕組みになっている。今後は、より多くの子どもの状況を把握するために、子どもの良い面に目を向けた活動や成長の記録を少しずつ蓄積し、より良い支援へとつなげていく工夫が期待される。